

- ②-③ 新春対談 スポーツのまちへ
- ④-⑤ 熱気人インタビュー
脚本家 古沢 良太さん
- ⑥ 厚木から羽ばたく熱気人
あつぎひと
- ⑦-⑧ コラム/お知らせ

デジタル広報配信 | アプリは「マチイロ」 ネットは「マイ広報紙」



原辰徳さん直筆サインボールは
1月4日から市役所本庁舎玄関に展示



スポーツ、文化・芸術、歴史の聖地づくりをPRするロゴ。スポーツ、文化・芸術、歴史が市民の皆さんの力で積み木のように重なり、一体となって聖地づくりにつながる姿を表現。

広報あつぎのロゴと書体をリニューアル

ロゴ

・親しみが感じられ、読みやすい平仮名に

書体

・文字が見やすいUDフォントに

☎広報課 ☎225-2040

プロフィール 1958年生まれ。緑ヶ丘小・南毛利中学校出身。小学2年～中学1年を市内で過ごす。小学2年生で野球を始め、東海大相模高校、東海大学を経て80年にドラフト1位で読売ジャイアンツに入団。81年には最優秀新人賞、その後、最優秀選手・ゴールデングラブ賞などを受賞。2002年に監督に就任しチームを3度日本一に導いた。

「厚木は初めて野球チームに入った原点とも言える場所」。読売ジャイアンツで選手監督として活躍した原辰徳さんは、小中学生時代を厚木で過ごしました。

12月に市役所を訪れ、厚木での思い出やスポーツの魅力を市長に語った原さん。「スポーツは、周囲の人を感動させる力がある。子どもがスポーツを始めたいくなるようなまちになってほしい」と力を込めました。市は、2024年もスポーツの聖地を目指した取り組みを進め、全国に羽ばたく皆さんを応援していきます。

《2・3面に関連記事あり》

原点



うまい下手ではなく
いい仲間ができる



前読売巨人軍監督
原辰徳

厚木市長

山口貴裕

市長 新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことお喜び申し上げます。今年も、長年にわたりプロ野球の選手・監督として活躍し、厚木市にゆかりがある原辰徳さんをお招きし、お話を伺いたいと思います。

厚木の思い出

市長 原さんは、幼少期を市内で過ごされたんですよね。
原さん 生まれは福岡県大牟田市で、私が小学2年生に上がる前の春休みに緑ヶ丘に来て、中学1年生までいました。今日も市役所に入った時、皆さんが「お帰りをさい」と言ってくれてありがたいなと思いました。
市長 厚木での思い出はありますか。
原さん 模型が好きだったので模型屋さんがあったとか、父と

ハヤを釣りに相模川に行ったとか、そういう思い出はすごくあります。あと、駅の近くには釣り堀やスケートリンクもありましたよね。私はとにかく野球が好きでね。市営球場は、厚木市民の中では東京ドームですね。あそこで小学5年生ぐらいの時、ホームランを打ったのはすごく覚えてます。隣のプールにもよく行きました。

スポーツの魅力

市長 今も少年野球の子もたちがプレーしています。原さんの中で厚木はどんなまちですか。
原さん 少年ではあったけれど一番影響を受けたというかわりに、野球や勉強、友達も分かってきたのがこの厚木。大人とまでは言わないにしても自分の世界が広がったという点では、厚木というところは私の原点です。

きっかけは何ですか。
原さん 物心ついたときには父が高校野球の監督をやっていた、母と一緒に、よく試合を見に行きました。当時の厳しい指導を見て嫌とは思わなかったですね。野球が好きなんだと思っただけそこからです。その後、厚木に来て少年野球チームがあること知り、始めました。そこで出会った友達は今でも付き合っています。

今後の目標と夢

市長 高みを目指すため、人より多くの練習をしたのですか。
原さん 体の奥底から汗を出したというのは高校からでしたが、追いつけなかった練習は思わぬくらいです。耐えたりとか、嫌々やっていたという意識がなくて、高校、大学とレベルが上がれば、自分よりも優れている人がいると感じるわけですね。目の前にライバルや目標となるプレーヤーが、あり全く飽きなかったです。

市長 原さんのお話にもありましたね、私も「一生懸命」を信条に歩んできました。それと、目的を持つ一つのところで努力し成し得る「一所懸命」も大事だと思っています。
市長 市内での世界・全国大会の開催や合宿・キャンプ地などの誘致でスポーツが盛んになれば、まちにもぎわいや活力が生まれます。市民の皆様がスポーツ活動を応援するため、聖地づくりに力を注いでいます。「する、見る、支える」のもスポーツ。幅広い競技のトップアスリートを身近に感じるには、施設整備などの環境づくりが重要です。厚木をスポーツの聖地として盛り上げ、憧れや誇りを抱いてもらえるようにしたいです。原さんはスポーツの持つ力、魅力は何だと思っていますか。

市長 刺激を受けて自分を磨き、レベルを高めたのですか。
原さん そうですね。スポーツの良さはいくつか出てくること。どのスポーツもそうだと思いますが、うまい、下手は関係なく、やっぱりいい仲間ができればいい仲間と出会えます。ね。野球というスポーツに出合えば、好きになり、やってきたのは非常に良かったと思います。
市長 私もスポーツを通じた仲間づくりは魅力の一つだと思います。スポーツだけでなく、社会も同じですね。仲間づくりに大事なことは何だと思えますか。
原さん 人に優しくすることです。縦の線と、横の線がつながれば、すごく大きなものになり、いい仲間や友達になると思います。大学では、スポーツだけではなく文化や芸術などを志す人たちとも関わり、いい勉強になったなとも思います。市長も若くしてリーダーになるのは大変なことだと思いますが、自分の中で思っていることはありますか。
市長 小さい頃からあったわけではあります。地域に根差した団体活動をしながら、周りの人と意見交換やまちづくりを見る中で、そういう気持ちが少しずつ芽生えてきました。これまでも、市政に「あつぎ愛」に変えていくこと、誇りある厚木をつくらなければならないと思います。
市長 リーダーとして大切なことは、勇気と努力、決断力、そしてタイミングだと思います。夢を語ることも必要です。夢に向かい市民の皆様、職員の皆さん

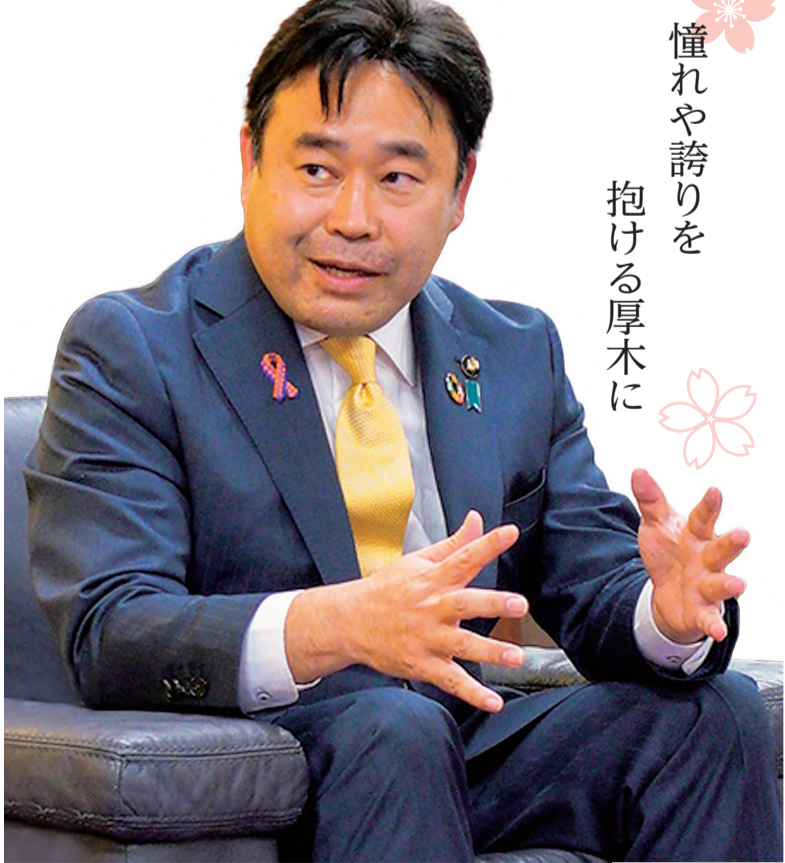
新春 対談
スポーツの
まちへ

原さん スポーツは、周りの方や応援している人々を感動させられるのが一番の素晴らしいことだと思います。日本のアスリートはどちらかというと国内に目を向けていたのが、近年、世界に飛び立つ人たちが増えてきました。そこで一番大事なのは、市長も言われる環境づくりだと思えますね。整った環境があれば子どもたちも力を発揮できるでしょうね。厚木市が競技や運動を促進する場のスポーツランドのような発信の地である、あるいは、若い人たちがこの地からスタートしていくまちになったらいいなと思います。
市長 スポーツを通じた子どもたちの健全育成が大切です。夢を抱き実現していく過程が重要だと思えます。厚木をスポーツの聖地にするために、今後原さんにご尽力いただけたらと思います。スポーツをする上で大切なことを教えてください。
原さん 準備をしっかりすることです。練習はもちろん、前の日にしっかりと休み体調を万全にするなど、人事を尽くすのが一番大事だと思います。スポーツに限らず、何事もその場で頑張ろうとしても無理です。目的を持って自分が準備をし、好きなことに取り組む。これが一番だと思います。

市長 小・中学校の給食の無償化や多くの市民が期待を寄せる本厚木駅周辺のまちづくりを、しっかりと進めていきます。私もそう思っています。その時

んと共に汗をかき、共感してもらったことが大事だと思っています。原さんはリーダーとして意識していることはありますか。
原さん いろいろなりリーダーがあります。監督として大事なのは、野球をよく知ること。それと決断力です。正しい決断力が重要です。少々波風が立つと、動じない心はそこに生まれてくると思います。監督になる前、ヘッドコーチを務めた3年間は非常に勉強になりました。ヘッドコーチは監督と選手の間、中間管理職です。監督と議論できる立場ですが、意見が食い違っても最後は監督の決定。それを選手に伝えるのですが、意見する選手もいます。その時「私もそう思ったんだけど」な

らうことが大事だと思っています。原さんはリーダーとして意識していることはありますか。
原さん いろいろなりリーダーがあります。監督として大事なのは、野球をよく知ること。それと決断力です。正しい決断力が重要です。少々波風が立つと、動じない心はそこに生まれてくると思います。監督になる前、ヘッドコーチを務めた3年間は非常に勉強になりました。ヘッドコーチは監督と選手の間、中間管理職です。監督と議論できる立場ですが、意見が食い違っても最後は監督の決定。それを選手に伝えるのですが、意見する選手もいます。その時「私もそう思ったんだけど」な



憧れや誇りを
抱ける厚木に

市内のスポーツ情報を発信
厚木のスポーツ

スポーツに親しめるよう、市HPでは、市内で開催される大会や参加できるイベントなどの情報を発信しています。競技への参加や選手たちを応援しませんか。

HPはこちら

市公式LINEでも応募できる
直筆サイン入り
色紙をプレゼント

原辰徳さんの直筆サインをプレゼントします。

【対象】市内在住の方10人

市公式LINEの応募フォームまたはハガキに原さんの色紙希望の旨と住所、氏名、電話番号を書き、1月31日(必着)までに〒243-8511 広報課 ☎225-2040へ。抽選。

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。



市役所内で手を振る原さん



脚本を書く時はスケッチブックに絵を描いてイメージを膨らませる



手掛けてきた脚本の台本



信長と家康の旅のしおりをイメージ



アイデアを書き留めるスケッチブック

あつきびと 熱気人インタビュー 脚本家 古沢 良太さん

厚木市出身の脚本家・古沢良太さんが紡ぎ出す物語は、映画やドラマ、舞台などの作品になり、多くの人を引き付けています。昨年はNHK大河ドラマも手掛けた古沢さんに、脚本家の道を歩み始めたきっかけや、生まれ育ったまちのことなどを聞きました。

【プロフィール】1973年厚木市生まれ。2002年第2回テレビ朝日21世紀新人シナリオ大賞を受賞し脚本家としてデビュー。06年「ALWAYS三日月の夕日」で第29回日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞。昨年のNHK大河ドラマ「どうする家康」の脚本も手掛けた。主な作品に「キサラギ」「相棒シリーズ」「探偵はBARにいる」「リーガル・ハイ」「少年H」「寄生獣」「コンフィデンスマンJP」「レジェンド&パタフライ」「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」などがある



脚本家として

脚本家の仕事に興味を持たれたきっかけを教えてください。もともと絵を描くのが好きで、漫画家になりたいと中学生ぐらいから思っていました。当時、手塚治虫先生が「漫画家になりたければ、一流の映画を見なさい」と言われていたのを真に受けて、物語の作り方を勉強するために古い映画なども見始めました。テレビっ子だったのでドラマも好きでした。当時、黒澤明監督の映画がビデオになっていなかったのが、図書館にあった脚本集を借りて読むようになり、ああ脚本書くのも面白いなと思うようになりました。

初めは漫画家を目指していたんですけど、中学生の頃は、友達に「絵がうまい」と褒められて、調子に乗って、先生をキャラクター化した4コマ漫画などを学校新聞に描いていました。漫画家になりたいと思ったのは、藤子不二雄先生の「まんが道」を読んだからです。中学生の頃に買った本を今も持っていますよ。高校・大学と投稿して賞に入ることもしましたが、デビューには至りませんでした。

脚本家の道を選んだ転機は？

1年間通ったシナリオのスクールで、初めて脚本というものをちゃんと1本書いて、それをすごく先生に褒めてもらって、ちょっとそこで自信が湧いたっていうのはありました。ただ、本当に書くのが大変です。こんなことを仕事にはできないと思ったり、やっぱり絵を描くのが好きだから漫画家になりたいと思ったりして、就職もせずブラブラしている時代がありました。それで、27・28歳ぐらいの時に、ちゃんと、夢を追うなら追う、やめるならやめると、けじめをつけようと思って、テレビ局主催のシナリオコンクールに応募しました。それが大賞に選ばれ、そのまま連続ドラマの脚本家の一人に入れていただいたという感じでした。

脚本を書く大変さを教えてください。

漫画も大変だし、…うん。やっぱり、多くの作品を見たり読んだりしていると、誰でも批評家としての目は持っているんじゃないですか。でも自分が書くとなると、こんなものしか書けないのかっていう壁に直面して。批評家としての目が高ければ高いほど、創作者としての力のなさに絶望して、嫌になって、最後まで書けないというのがほとんどの人だと思っんです。目指したけれどやめてしまう人は、でも、とりあえず、恥をさらけ出す覚悟で最後まで書き切るっていうことが本当に…、なかなか難しいことですよ、それは。しかもそれを人に見てもらって、批評を浴びるって

うのは。人に見せるに値するほどの面白い話を考えるって、簡単なじゃないですか。それを、毎週のように考えて書いていく仕事って、ちょっと想像できません。

私たちが脚本家としての手を経て出来上がった映画やドラマを目にします。古沢さんはどう捉えていますか。

もちろん楽しみと不安と両方ありますよね。ただ、僕の思い描くものは僕の中にしかなくて、文字で伝えるのには限界があるので、受け取った人がどう表現するかは、また別なので。極端に言うとう、思い描いていたものとは常に違うものが出来上がってくるんですけど、でも、僕が目指したものが出来上がるのがゴールではなくて、見てくれた人が楽しんでくれるものを目指してみんなで作るもの。お客さんが喜んでくれれば僕はそれでいいんです。いろんな人のセンスやアイデアが入り交じっているのが、ドラマや映画の面白いところだし、みんなものを作ることに醍醐味だと思っています。

脚本を書くときに大事にしている事や、心掛けている事はありますか。

心掛けてる事…いや、あるはずですよ。いろんな仕事の誘いを頂くけれど、やっぱり自分として、情熱を注げるかどうかということが多分一番大事で、チャレンジしてみたいとか、やりがいを見いだせるかということ、一方で、自分のために作るわけではないので、受け取ったお客さんたちの多くが喜んでくれるだろうという、この二つの円が重なる所を見つけてっていうこと、あとは、楽しむことかなと思います。

脚本家を選んでよかったと思う瞬間はどんな時ですか。

選んでよかったと思うのは、そうですね。でも、常に思っていますね。日々思っています。作り話を書いて、みんな喜んでもらって、お金ももらっているわけなので。ありがたいことだと思っし、どの瞬間とかではなく、やっぱり、考えたり書いたりすることが好きで、創作する人生を送れているということそのものが、最大の喜びというか、幸せなことだと思います。

厚木のこと

創作が好きなのは何かに影響を受けて

周りにすごく子どもが多くて、時代的に。僕が生まれ育った辺りには、商店街がありました。当時、実家が商店で年の近い子がいっぱいいて、毎日遊んでいました。画用紙を買ってきてボードゲームみたいなものや、すごろくゲームみたいなものを自分たちで考えて作っていま



穏やかな口調で丁寧に質問に答える古沢さん

図書展 脚本家・古沢良太を作った本

古沢さんが学生時代に中央図書館で手に取った本や、手掛けた脚本に関わる本などを展示・貸し出します。

中央図書館 ☎223-0033

《期間》1月31日まで

《内容》関連書籍約50冊と直筆サインなどを展示

2025年1月リニューアルオープン

文化会館の利用受付を開始

1年後のオープンに向けて、施設貸し出しの受け付け・抽選を順次実施していきます。

文化会館 ☎225-2588

受け付けや抽選の詳細は文化会館HPに掲載。

詳細はこちら

サイン入り色紙をプレゼント

《対象》市内在住の方2人

市公式LINEの応募フォームまたはハガキに古沢さんの色紙希望の旨と〒住所、氏名、電話番号を書き、1月31日(必着)までに〒243-8511 広報課 ☎225-2040へ。抽選。

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

内容は異なる場合があります



脚本の構成を書いたメモ



1985年頃の本厚木駅周辺の街並み

夢の舞台に立つために

プロサッカー選手 田中 桃子さん(23)

【プロフィール】 2000年生まれ。清水小・睦合東中学校出身。日テレ・東京ヴェルディベレーザに所属するプロサッカー選手。U-16・17・19の日本女子代表として試合に出場。21年のオランダとの国際親善試合で日本代表デビューを果たし、23年にはFIFAワールドカップメンバーに選出された。



東京ヴェルディ提供

小学5年生の時からキーパーのポジションに

「左サイド、空いてるよ」「ナイス、カット」。声を張り上げてグラウンドの状況を伝え、仲間を鼓舞するのはゴールキーパーの田中桃子さん。プロリーグで活躍するサッカー選手だ。2021・22・23年に日本女子代表に選ばれている。

田中さんがサッカーを始めたのは幼稚園生の時。サッカースクールのポスターを見たのがきっかけだった。小学生になってからも市内のスポーツクラブでサッカーを続け、夢中でボールを追いかけた。田中さんが高いレベルでのプレーを目指すようになったのは、小学6年生で受けたクラブチームの育成組織の加入試験の時。軽い気持ちで臨んでいたが、トップチーム選手たちのサッカーへの真剣な姿勢やプレーを間近で感じ、「自分も先輩たちのようなプレーができる選手になりたい」と刺激を受けた。加入が決まった時にはトップチームで活躍することが目標になっていた。

中学生になると、クラブチームでの練習が始まった。授業が終わり、片道1時間かけグラウンドへ。「週6日は練習に通った。指導者からは高いレベルのプレーが求められ、自分の実力とのギャップがつかかった」と当時を振り返る。U-16・17の日本代表にも選ばれたが、緊張やプレッシャーで思うようなプレーができなかった。その時、心の支えになったのはチームの



東京都稲城市にあるグラウンドで練習する田中さん

仲間と目標にしている先輩たちの姿だった。「苦しいのは私だけではない。同じ目標に向かう仲間がいる」とがむしゃらに努力を続けた。

トップチームに所属してからはチームの勝利のために自分に何ができるか考えるようになった。経験を積む中で、ゴールを守るだけでなく、フィールド全体を見て仲間情報を伝えるのもキーパーの重要な役割だと感じた。チームで実戦を重ね21歳の時、日本代表のメンバーに初めて選ばれ、試合に出場した。「やっとこのステージに立てた。U-16・17の代表の時、緊張で良い結果を残せなかった経験を踏まえて、試合を楽しもうとポジティブな気持ちで臨んだ」と当時を振り返る。

23年には、ワールドカップのメンバーにも選ばれた田中さん。しかし、試合に出場することはできなかった。「今年はパリオリンピックもある。次こそはグラウンドに立ちたい」と意気込む。チームの勝利のため、そしてパリオリンピック出場のため悔しさを糧に今日もグラウンドに向かっていく。

厚木から羽ばたく

熱気人

Atsugibito

自身の好きを伸ばし、夢に向かって努力する「熱気人」たち。明るい未来を目指し、自身が信じた道を歩んでいきます。

問 広報課 ☎225-2040

さらなる高みを目指して

チアリーディング選手 曾根 啓夢さん(17)

【プロフィール】 2006年生まれ。三田小・睦合中学校出身。小学5年生から東京都内の少年チアリーディングチーム「HEROES」に所属し現在も活動中。23年のチアリーディング世界大会では日本代表選手として出場。



練習では個人演技のジャンプやメンバーとの連携を確認

応援にアクロバティックな要素が加わり、技の完成度や表現力などを競うチアリーディング(以下チア)。曾根啓夢さんは昨年4月、アメリカで開催された世界大会の男女混成部門に日本代表として初めて出場し、優勝を果たした。

曾根さんは小さい頃から運動が好きで、器械体操やチアダンスを習っていた。チアとの出会いは小学4年生の終わり頃。家族の勧めで行った大学の学園祭で、男子チアリーディング部の演技を見た時だ。高さや迫力に衝撃を受けた曾根さんは「見た瞬間、『自分もやりたい』と思う」と振り返る。小学5年生になった時、男子チアのチームが都内にできると聞き、すぐに入社を決めた。

始めた頃は演技するための筋力が足りないことや、メンバーとの信頼関係を築く難しさに悩むこともあったが、「できないことがある方が、できた時の達成感があつてうれしいし、チアが好き仲間全員で演技を作り上げるのが楽しい」と笑顔で話す。毎週、厚木から都内の活動場所に通い、指導者からアドバイスをもらったり、仲間と課題を話し合ったりして練習を重ねた。

曾根さんの努力が実を結んだのは高校1年の12月。世界大会の日本代表選考会を通過した。大会までの4カ月間、一つ一つの演技のレベルと完成度を上げるため、メンバーと無我夢中でチアと向き合った。迎えた本番は、世界を舞台に最高のパフォーマンスを披露した。

現在は、4月に開催される世界大会出場に向け、練習を続けている曾根さん。「また日本代表に選ばれて、世界の頂点を目指したい」と力強く話す。曾根さんのさらなる挑戦は続いている。

タウンガイド

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ㊚=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📍=講座予約システム(インターネットで申し込み可)
 愛TV 1/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「本厚木駅前イルミネーション」
 #12月14日撮影
 #イルミネーション
 #本厚木駅
 #niceatsugi
 市公式インスタグラムで公開中



まちの魅力を伝える 愛TV 1/1~ 市民リポーターを募集

市の魅力やお知らせを伝えるリポーターを募集します。地域の情報を、皆さんの視点で発信してみませんか。
 ☎広報課 ☎225-2040



《活動内容》

- リポーター** 市広報番組「あつぎ愛テレビ」のレポートなど **《対象》** 市内在住在勤在学の18歳以上30人程度
- カメラマン** イベントや風景などの撮影 **《報酬》** 1回2000~1万円
- モデル** 広報紙などの写真モデル **《任期》** 4月1日~(2年間)
- 司会** イベントでの司会進行

☑履歴書(志望動機・希望の活動内容も記載)を、直接または郵送で1月31日(必着)までに〒243-8511広報課へ。書類選考後、オーディションの詳細などを通知。



詳細はこちら

消防出初め式

1月14日、10時~。荻野運動公園。古式消防保存会のまとい振り込み、はしご乗り、消防団一斉放水など。無料。☑不要。当日7時にサイレンを鳴らします。☎警防課 ☎223-9368。



森の里東地区の都市計画変更素案に関する説明会

1月31日、19時~。小鮎公民館。土地地区画整理事業や緑地などの都市計画変更に向けた説明会。☎電話またはファクス、Eメールに説明会

名、〒住所、氏名(ふりがな)、電話番号を書き、1月30日までに都市計画課 ☎225-2400・☎222-8792・✉4600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

会計年度任用職員を募集

●科学指導員
《対象》 科学の普及に熱意のある18歳以上 **《勤務先》** 子ども科学館 **《勤務内容》** 科学教室指導、プラネタリウム投影・施設管理業務など **《勤務時間》** 週1~5日(シフト制)、9時~17時15分。

●児童館指導員
《対象》 子どもの健全育成に熱意がありパソコンが使える18歳以上 **《勤務先》** 市内児童館(児童館への異動あり) **《勤務内容》** 子どもの指導育成、施設管理など **《勤務時間》** 週15時間程度(10~17時のうち4時間程度、複数人の交代勤務制)。

いずれも《任期》4月1日~(最

長1年。更新あり)《報酬》1112円(条件付きで通勤手当あり)。書類選考後、面接あり。☑青少年課や市HPにある申込書を、■は1月4~14日に直接、子ども科学館 ☎221-4152へ。●は直接または郵送で1月23日(必着)までに〒243-8511青少年課 ☎225-2581へ。

広報写真コンクール市民投票

審査の参考とするため、市民投票を実施します。
《期間》 1月12日~2月2日 **《場所》** あつぎ市民交流プラザ。☎広報課 ☎225-2040。

産前産後の国民健康保険料の免除制度

保険料の一部が免除されます。
《対象》 国民健康保険に加入し、出産日または出産予定日が2023年11月以降の方。☑母子手帳、出産後に届け出をする場合は出産した被保険者と子どもとの身分関係が分かる書類、単胎・多胎妊娠を確認できる書類を持ち、直接、国保年金課 ☎225-2123へ。

荻野運動公園の利用制限

1月8日は、はたちのつどいのため、一般の方は利用できません。☎青少年課 ☎225-2580。

みんなの声でつくるまち

《パブリックコメント》

- みんなの生物多様性・生物多様性あつぎ戦略2024-30の改定
- 環境学習プランの策定
- ☎環境政策課 ☎225-2749
- 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定
- ☎企画政策課 ☎225-2455

いずれも《閲覧期間》1月4日~2月5日《閲覧場所》各課、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、保健福祉センター、市HP(■は青少年課、ふれあいプラザ、あつぎ郷土博物館もあり)《応募方法》閲覧場所にある用紙で確認。

厚木市 市民参加 検索

第10回 みんなで目指そう カーボンニュートラル

カーボンニュートラル(CN)とは、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らし、植林や森林管理などによる吸収量を増やすことで、実質ゼロを目指す取り組みです。

今月の挑戦 エシカル消費を意識しよう



エシカル消費は、地域や環境などに配慮した物やサービスを選ぶことです。再生可能エネルギー由来の電気契約や、リサイクル素材の衣服・CNに積極的な企業の製品購入などを取り入れましょう。日常生活の身近な選択でCNに取り組んでみませんか。

ペットボトルを細かく砕いて溶かし、糸にして衣服に再利用



☎環境政策課 ☎225-2749

詳細はこちら

ホット インターネットモニターからの意見を紹介

いメール Hot E Mail

インターネットモニター募集中
 厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課 ☎225-2043

12月1日号「広報あつぎ」を読んで
 ◆伝統工芸品を障がい者の方々が守っているのは、素晴らしい/40代女性 ◆ふれあいプラザは行ったことがないので利用してみたい/50代男性 ◆知りたい情報が迅速に見られるようになって良かった/70代以上男性 ◆インフルエンザ以外にも寒い時期は体調を崩しやすいので気を付けたい/50代男性 ◆いざという時にファミサポ制度を使ってみよう/30代女性 ◆金澤翔子展にぜひ行きたい/60代女性

編集後記 市長と対談のため市役所に来庁した原辰徳さん。厚木で幼少期を過ごしたことを初めて知った方もいると思います。対談では、厚木での思い出やスポーツの話を、力強く、丁寧に話す様子が印象的でした。何より、合間に冗談を言ったり、気さくに話かけたりと、私たちと同じ目線で、周りを気遣う姿に感銘を受けました。その紳士的な振る舞いが皆を引き付ける魅力なのだと思えました。肌で感じました。森

市民の皆様、明けましておめでとうございます。新年を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。日頃から、市議会に對してご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年、7月に市議会議員選挙が執行され、新たな28名の議員が信託を受けました。議員一丸となり、議会改革を推進し、議会のさらなる活性化と機能の向上に努めてまいります。そして、行政と力を合わせ、本市が皆様にとって、より生活しやすいまちとなりますよう尽力してまいります。

結びに、本年が実り多き年になりますとともに、皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

市民の皆様により身近な議会へ

市議会議長 遠藤 浩一

あつぎ郷土博物館 5周年記念イベント



あつぎ郷土博物館は、1月27日に開館5周年を迎えます。常設の展示に加え、企画展や講座などを開催し、これまで約13万人が来場しました。節目の年に合わせ、次のイベントを開催します。

☎あつぎ郷土博物館 ☎225-2515

■記念セレモニー

日時 1月28日 10時45分～

内容 相模里神楽垣澤社中による
寿三番叟、寿獅子など

☎不要。先着順。



■渡辺華山講座

日時 1月28日 13時30分～15時30分

内容 華山の絵画の世界を紹介

定員 60人

☎1月18日までにあつぎ郷土博物館へ。抽選。🎫

いずれも無料。会場、問い合わせはあつぎ郷土博物館。



■博物館・新グッズ発売

市内出土の土器などのミニチュアレプリカの入った、カプセルトイを販売します。

金額 500円



詳細はこちら



企画展

火の用心 あつぎと秋葉信仰

厚木の人々と、火伏信仰で有名な秋葉山（静岡県）とのつながりを示す史料を展示します。

☎あつぎ郷土博物館 ☎225-2515

期間 1月13日～3月3日 9～17時

展示品 市内の灯火具コレクター・加藤芳明さんが収集した、秋葉山に関わるお札や掛け軸など約150点を展示

■講演会

日時 1月①14日②21日 14時～15時30分

内容 ①江戸時代における秋葉信仰の広がり
—相模・武蔵・江戸の場合
②江戸時代の秋葉・金毘羅信仰
—釈迦三尊十六善神図に着目して

■講座 灯りをともす・鼠短徑、行灯を体験する

日時 2月3日 16時30分～18時
※当日は18時45分まで開館

内容 江戸時代の灯火具などを体験
いずれも無料。☎不要。



展示品は、「書」としての魅力や描かれている神仏も楽しめる



30周年 自然歳時記

●ジュウガツザクラ● バラ科

ジュウガツザクラは、コヒガンザクラの園芸種。開花期は10～4月頃で、白やピンク色の清楚な花が咲く。花の少ない冬に満開になりとても美しい。七沢森林公園・森のアトリエ前で見つけた。写真・文/吉田文雄



森のアトリエの広場は周りを木々に囲まれ、その空間を鳥たちがうれしそうに飛び回っていた。

エナガを中心にした混群が谷の方へと飛んで行き、細いサクラの枝先に止まったが、「ジュリジュリ、チイチイ」という鳴き声とともに飛び去ってしまった。その細

い枝先に、小さな白い花がポツポツと咲いていた。八重のジュウガツザクラの花だった。寒空の青色に、はかなげな花がくっきりと浮かび上がり、美しく輝いていた。

冬に咲く花は少ないが、小鳥たちやハナアブなどの昆虫類も集まる歓喜あふれる空間となっていた。

厚木市の人口
(12月1日現在)

🏠 世帯数 10万5138世帯 (前月比99世帯増)

👤 人口 22万4102人 (前月比4人増) 男11万5441人・女10万8661人